富士箱根伊豆国立公園 (富士山地域)

公園計画の変更 (一部変更)

1. 富士箱根伊豆国立公園について

2. 今回変更(一部変更)について

1. 富士箱根伊豆国立公園について

2. 今回変更(一部変更)について

富士箱根伊豆国立公園(富士山地域)の概要



太平洋の島々から霊峰富士を繋ぐ一大火山群 ~火山地形と文化が創り出す多様な景観~

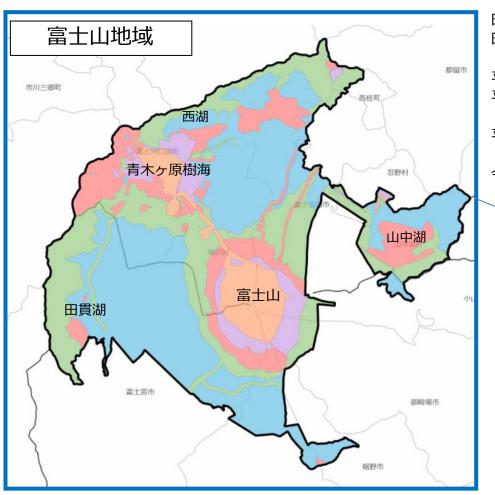




富士箱根伊豆国立公園(富士山地域)の概要

● 指定:昭和11年2月1日(富士箱根国立公園)

● 面積: 121,749ha(うち、60,645haが富士山地域)



昭和11年(1936年)富士箱根国立公園指定 昭和30年(1955年)富士箱根田豆园立公園入

昭和30年(1955年)富士箱根伊豆国立公園へ名称変更 (伊豆半島地域の拡張に伴う)

(伊豆半島地域の拡張に伴う)

平成8年(1996年) 富士山地域 再検討の実施

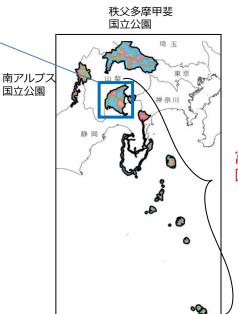
平成18年(2006年)公園計画第1次点検

H25(2013)年 世界文化遺産

登録

平成30年(2018年)公園計画第2次点検

令和元年(2019年)公園計画の変更(一部変更)



富士箱根伊豆 国立公園

5

1. 富士箱根伊豆国立公園について

2. 今回変更(一部変更)について

今回の変更内容

●背景

- ✓ 現状富士北嶺地域や箱根地域に偏っている本地域の宿泊利用について、滞在拠点の分散化が課題
- ✓ 国立公園満喫プロジェクト推進に向けた計画「富士箱根伊豆国立公園ステップアッププログラム2025」において、本地域の周遊利用を進めるとともに、利用の偏りによる過剰利用を解消し、上質な利用環境を提供するため、地域とともに受入環境整備等に取組むことが示されたことに基づく、利用施設の整備方針の変更。

「富士箱根伊豆国立公園ステップアッププログラム2025」 P29

イ、利用環境の整備、充実、保全

- ・ 利用者の多いエリアであるからこそ、過密状態を解消し幅広い利用者が満喫できる、利用のための受入環境(ハード・ソフト)整備を積極的に行っていく。現状、過密状態にある猪之頭地区において<u>キャンプ場の整備</u>を進めるとともに、朝霧高原地区において<u>周辺施設の利用を推進する宿泊施設の誘致</u>に向けた取組を行う。
- ・ 富士山麓エリアの広域にまたがる登山道等<u>に設置する標識やその多言語表記について統一</u> を図るために、簡易ガイドラインを作成する。また、登山道整備においては、周辺の自然物 や地形を活かし、生態系を復元させる近自然工法の導入を検討する。
- ・ また、国内の利用者をはじめ、高齢者や障がい者、外国人など多様な利用者が満喫できるよう、ユニバーサル対応について学ぶ研修会等を開催する。
- ・ 国立公園の基盤である自然環境の保全については動植物の生命を守ると同時に利用者に満喫して帰ってもらうために、今後の外来種対策、希少種保全、野生生物保護等についても関係者で意見交換を行うなど、保全上の課題解決を目指す。

実施内容	実施主体
猪之頭地区で過密状態にあるキャ	ンプ場の整備 静岡県
朝霧高原地区での周辺施設の利用 泊施設の誘致	を推進する宿富士宮市
標識等の簡易ガイドラインの作成	白冶体、環境省
近自然工法による登山道整備の検	討 関係事業者、NPO、自治体、環境省等
ユニバーサルマナー研修	富士北麓ユニバーサル アドベンチャーツーリズム協議会
今後のロードキル対策等について	の協議 富士山アウトドア ミュージアム、自治体等

今回の変更内容

- 追加計画地(朝霧高原)について
 - / 富士山麓の北西に位置し、周辺には田貫湖や青木ヶ原樹海が存在。
 - ✓ 周囲の宿泊拠点は田貫湖の付近のみと少ない。



今回の変更内容

- 利用施設計画(宿舎)の追加
 - ○整備方針富士吉田富士宮線道路(車道)沿線における富士山と 天子山系の景観を活かした、朝霧高原周辺探勝のための滞在拠点として整備する。
- ●計画予定地(詳細)



1. 富士箱根伊豆国立公園について

2. 今回変更(一部変更)について

パブリックコメントの実施結果

■概要

・実施期間 令和4年3月28日(月)から4月17日(日)

・意見募集の結果 【意見提出数】

電子メールによるもの計2通郵送によるもの計0通FAXによるもの計0通今回の変更案にかかるもの計2件